

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600543		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームかもがわ 1階		
所在地	静岡県三島市加茂川町3-32		
自己評価作成日	令和3年10月5日	評価結果市町村受理日	令和4年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=2270600543-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=2270600543-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 11月 26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・三島大社や楽寿園など三島市民にとって馴染み深い場所が近く、大場川沿いの閑静な住宅街にあることを活用しながら、コロナ禍においても近所へ散歩に出かけ、歩行機能の維持に努めています。</p> <p>・企業信条である「その人 のために」を念頭に置き、個別ケアを軸に一人ひとりの生活を大切にしています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>企業理念・事業所理念を掲示し、理念に基づいた支援を心掛けている。</p> <p>複数事業所を運営する法人は、管理者によるホーム長会議や職員による各種委員会活動の仕組みを整え、法人内事業所間での職員の交流を図っている。法人本部はいち早く「業務継続計画(BCP)」を策定し、感染症対策・災害発生時の対応と協力体制について話し合いが行われ、合同訓練等の実践に取り組んでいる。</p> <p>職員全員がモニタリングを記入して介護計画作成に繋げる仕組みがあり、ケア記録アプリを活用しながら、都度介護計画に基づく支援の実践に努めている。</p> <p>コロナ禍により外出・面会の制限がある中、予約での窓越し面会や毎月「お便り」の送付、近隣の散歩や敷地内の畑作業など、家族や地域との関係継続を心掛けている。感染症対策に留意しながら、野菜の収穫や居間の飾りつけ等、季節を感じながら暮らすことができるように工夫している。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに入ってからすぐの場所に理念を掲示し共有することで意識をもち、個別ケアの実施に心がけている。	事業所開設時に職員が考えた理念を掲げ、常に理念を確認することができる。管理者は毎月、法人内事業所管理者によるホーム長会議や職員とのユニット会議により、情報共有を図りながら、理念に基づいたケアの実践を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域の行事への参加はできないが、散歩に出かけた際にはこちらから挨拶をしている。	コロナ禍により、地域行事(敬老大会、総合避難訓練など)の参加はできない状況だが、町内会に加入し、日々の挨拶や野菜のおすそ分けなど、近隣住民との交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に向けてはお話をすることもあるが、地域の方に関しては中々する機会がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、会議はせずご家族や地域包括などに運営状況を報告し意見やアドバイスをいただき、ケアの向上に努めている。	コロナ禍により、書面により2か月に1回開催している。地域包括支援センター職員、介護相談員、訪問看護師、町内会長へ現状報告を送り、返送された意見は議事録にまとめ、運営推進会議委員及び職員と情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡協議会や市役所へ行く際に現状の報告に努め、施設の実情や取り組みを伝えている。また、写真の展示会などに参加している	三島市GH連絡協議会に参加し、市担当者や他事業所との情報交換を行っている。協議会が開催する「介護の日」の展示会に参加し、家族が写真展を見学するなど、行政担当者と常に連絡を取り協力できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を定期的に行い、職員間の意見交換によって、不適切な行為になりそうな事を皆で考えながら改善している。また、日中は玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている	身体拘束に関する指針・マニュアルを整え、身体拘束適正化委員会を2か月に1回開催して、法人内他事業所と情報交換を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「身体拘束・虐待委員会」を設置して、年2回職員研修会実施など、担当職員を中心に取り組みを継続している。	

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて身体的虐待、心理的虐待を学ぶ機会を持ち、職員間の意見交換を行い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がいるが、学ぶ機会は少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点などを会話の中から聞き出し、丁寧に分かりやすく説明し安心、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況報告時に、意見をいただいている。また、要望がある時には気軽に電話をかけて来てくださっている	コロナ禍により面会制限をしていたが、今後は状況を判断しながら緩和していく方向である。事前予約での窓越し面会や、居室担当者による写真とコメントを付けた「お便り」を毎月送付し、都度、利用者の様子を伝えるとともに、家族からの意見の吸い上げに努めている。	コロナ禍の中で、家族との交流は難しい状況であるが、家族からの意見や要望は重要な情報であることから、年に1回程度はサービス満足度アンケートを行い、家族に対して積極的な働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気づいた時に時間を作ってもらい、意見や疑問に思う事を聞いてもらっている	月例の職員会議やユニット会議にて職員との意見交換を行うと共に、法人は各種委員会を整え、担当職員は、法人内他事業所職員と意見交換や情報共有ができる。管理者は都度問題の指摘や職員からの意見の聴き取りを心掛け、年2回の「人事評価」では職員の自己評価シートをもとに、管理者や法人本部と話し合える場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価や個別面談を行い、個々の実績や意向を把握している。また新しい試みの提案があれば取り入れやりがいや向上心を持てるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の参加や、必要な職員に外部研修を受けられるようにサポートしている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのリモート会議や勉強会に参加し他ホームの職員との交流や意見交換を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を把握しカンファレンスを行い「その人」を知ることにも努め、入居後はゆっくりと話を傾聴するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談をしてアセスメントを行い、ご家族の不安や要望、困っている事などを聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご本人、ご家族の必要とされている支援をアセスメントにて見極めている。必要に応じ他施設の紹介や情報をお伝えしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物など、職員が全てを行うのではなく、一緒に日常の事を行えるような環境を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や来所時に近況報告を行い、面会規制の中で、必要に応じて電話などの取り次ぎの支援をしている。代理受診や必要なものの購入などできることはしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の為、面会は自粛して頂いているが、昔なじみの友人からの電話などの取り次ぎをしている	現在はコロナ禍により、面会・訪問を制限しているが、以前からの友人や理美容師などとの関係継続を図るとともに、平時には三島市ボランティア・職員や利用者の家族によるボランティア活動を通し、事業所・職員が利用者・家族の馴染みの関係となるよう支援に努めている。	

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間の席の工夫や、家事手伝いをつ数名で一緒にやるなどして入居者様同士がかかわりあう環境を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事やイベントなど協力して頂いたり関係性を断ち切らないよう努めている。また、電話などで介護に関しての相談を受けることもある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通ができる方は会話から聞き取り、できる範囲で希望に沿うようにしている。できない方は表情や振舞いから汲み取っている	「入居申込書」「相談受付票」により、利用者・家族の希望や意向を入居時に確認し、入居後1か月程度は、利用者の状態・様子を観察しながら、希望や意向の把握に努めている。職員全員で利用者のモニタリングを記入し、ユニット会議にて意見交換・情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中からの情報や、ご家族から生活歴や環境を聞き取り、自宅で使われていた家具や寝具などを持ち込んでいただき、できうる限り入居前に近い環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、挨拶や日常会話などで状況把握に努め、申し送りノートなどで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の介護の中で見出す課題を上司、ケアマネ、他職員と共有し話し合っている	利用者のモニタリング・アセスメントシートを職員全員で記入し、ユニット会議にて意見交換・情報共有を図っている。ケアマネジャーは、職員からの意見やケア記録アプリの記録を基に介護計画を作成し、計画に基づくケアを実践する仕組みが整えられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録を残し、特記は申し送りノートなどを活用し皆で情報共有している		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズがあった場合は、職員間で話し合いできる範囲で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のためできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望であれば、入所前より通っていた病院を継続して受診又は往診を依頼している	協力医による月1回の全員診療と、月2回利用者個別の往診があり、協力医がほぼ毎日訪問しているため、常に連絡をとることができる。他科受診のための通院は家族の協力を得ている。週1回訪問する看護師は、看護日報により職員との情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院より健康管理のため週に一回訪問看護師が派遣され、個々に様子、体調などの管理をしている。必要に応じて指示やアドバイスをしてもらい、各主治医にも上申をしてくれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には基本情報を伝え、定期的に病院へ赴き情報交換をしたり、ご家族に経過を聞き主治医に報告している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は主治医、訪看、職員と話し合い、早めにご家族も含めムンテラを行い、事業所での看取りを希望された場合は事業所でできることを説明し、その中でご家族の意向になるべく対応できるようにしている	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、入居時に「看取り確認票」にて、利用者・家族の同意を得ている。重度化した際には、主治医とともに家族に再度説明し、意向に沿った対応を心掛けている。職員は、看取り指針・マニュアルについて定期的な研修を行い、利用者・家族の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を活用し、緊急連絡訓練をしたり、対応法のプリントを配布し各自対応できるようにしている		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を行い、水害時には防災マップ、避難レベル水位の確認ができるように研修をしている。また、法人内でBCPを作成し系列ホームとの協力体制を築いている	年2回、火災・水害等テーマを決めて防災避難訓練を行っている。法人作成の計画(BCP)に基づき、水害ハザードマップを検証し、法人内他事業所との連携訓練を計画している。事業所2階に水・食料・卓上コンロなどを備蓄し、防災担当職員を中心にローリングストックにて管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格などを把握し、その方に合った声かけや話し方をしている。職員間での申し送り時には部屋番号で行い、入居者様に分からないようにしている	人格の尊重やプライバシー保護について、法人の接遇研修等による定期的な研修を行い、職員への周知を図っている。利用者への声掛けや話し方について課題がある場合は、都度管理者が注意するとともに、申し送りノート等を活用し、職員との情報共有を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話で気軽に言えるような関係を築き、意向を聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、入浴や食事時間を変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご本人にお任せしているが、季節に応じた洋服選びや身だしなみになるように声をかけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下処理や盛り付けを手伝って頂いたり、下膳をしていただいている。献立や好みの味付けなどを話しながら、楽しんで食事をしていただいている。	コロナ禍により買い物の外出を制限しているため、定期的に業者から届く食材と、施設内の畑で作った新鮮野菜を専門の職員が調理し、利用者とともに食事をしている。行事の際の食事や、利用者の好みを聴いて誕生日祝いの食事をするなど、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに応じた飲料の提供をして、水分量が不足しないようにしている。また、食事が取れない方には主治医に相談し栄養補助飲料を処方して頂いている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立でできる方でも、きちんと行えているか確認を行っている。介助が必要な方はスポンジやマウスウォッシュを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの座位保持ができない方は、ベッド上でパット交換をしている。その他の方は、個々の排泄パターンで時間を決め適宜声かけしトイレ誘導を行っている。	ケア記録アプリを活用した「排泄チェック表」をタブレットで入力し、個々の排泄パターンに合わせた声掛け、トイレ誘導を心掛けている。夜間ポータブルトイレ利用者もいるが、食事の前後、利用者の様子などからこまめな声掛けを心掛け、トイレ利用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事や朝食にヨーグルト、10時に牛乳を使用した飲み物などを提供し予防している。また、施設内で運動への働きかけや、十分な水分接種に心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助の方はある程度決まった時間帯に入っていただくが、その他の方には、入浴日や時間など希望に沿っている。	「入浴シーツ交換チェック表」を活用し、週2～3回を目途に、曜日・時間を決めずに入浴を支援している。職員の配置、同性介助、シャワー浴など、利用者の状態・希望に合わせて、柔軟な対応を心掛けている。入浴剤を利用し、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の様子を見ながら必要であればベッドで休息して頂いている。不安時には声かけ		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに見れるように内服薬情報をファイルしておいてある。症状の変化などあった際には、職員間で話し合い主治医に報告し変更があった場合は、申し送りノートを活用し把握するようにし細かな様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、その人のできる事に合わせてお手伝いをさせていただいたり、季節に合わせて施設内で楽しんでいただけるよう工夫している。また、畑で野菜を育て、一緒に収穫などしていただいている。		



静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のためできていない。	コロナ禍により、大勢での外出・買い物はできないが、近くの川で鯉を見たり、敷地内の畑での野菜の収穫など、日光浴や自然の風を感じてもらえるよう、気候・体調をみながら、利用者個々の散歩を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のためできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方には自由にしようとしていただいている。電話や手紙の取り次ぎや読み聞かせを行い、わかりやすく自室の壁に掲示している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りを共有の居間に季節感を味わえるように掲示している。	折り紙等を使って利用者と共に作った作品を飾り、季節を感じる空間づくりを心掛けている。感染症対策として、食事前にはテーブルや手指の消毒、午前・夜間の清掃、窓を開けてこまめな換気など、清潔な生活空間の保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや音楽などをかけ、気の合った同志で椅子を移動し談話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具やタンスなど自宅から持ち込んでいただくように、ご家族にお願いしている。	洗面台・クローゼットが備え付けの居室は、使い慣れたものを持ち込み利用者好みの部屋づくりを支援している。職員は、利用者の状態や気候に合わせて、エアコンの温度調整やこまめな換気に配慮し、居心地よい部屋づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などわかるように表示をして自立した生活ができるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600543		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームかもがわ 2階		
所在地	静岡県三島市加茂川町3-32		
自己評価作成日	令和3年10月5日	評価結果市町村受理日	令和4年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2270600543-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600543-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 11月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・三島大社や楽寿園など三島市民にとって馴染み深い場所が近く、大場川沿いの閑静な住宅街にあることを活用しながら、コロナ禍においても近所へ散歩に出かけ、歩行機能の維持に努めています。  
 ・企業信条である「その人 のために」を念頭に置き、個別ケアを軸に一人ひとりの生活を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をフロア入り口に掲示し、毎日職員の目に入りやすくしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけたり、外の畑に出たときに近所の方にこちらから挨拶をしている。コロナ禍のため地域の行事への参加はできていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族へはしているが地域の方に関しては機会がなくてない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため会議はせず、ご家族や地域包括などに運営状況報告をし、意見やアドバイスをいただき、ケアの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡協議会や市役所に行く際に現状の報告に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修をおこない身体拘束について、もう一度確認し不適切な行為がないか話し合っている。日中は玄関の施錠はせず自由に出入りできるようにしている		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、事業所内での虐待を見逃さないように注意し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後継人制度を利用されている方がいるが学ぶ機会は少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点など会話の中から聞き出し、丁寧に分かりやすく理解できるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況報告時に意見をいただいている。また、要望がある時には気軽に電話をかけてきてくださっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から提案がある時など時間を作ってもらい聞いてもらっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事評価を行や定期的な個別面談を行い個々の実績や意向を把握している。また、新しい試みの提案があれば取り入れ、やりがいや向上心を持てるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の参加や、必要な職員に改部研修を受けられるようにサポートしている		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのリモート会議や勉強会に参加し、他ホームの職員との交流や意見交換を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	食事や飲み物の好みや、日中の過ごし方などご本人との会話の中で情報を得たり都度の声かけを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にが家族から自宅での様子などの聞き取りを行い、不安や要望などを聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に管理者、ケアマネが面談を行いアセスメントを行っている。必要に応じ他施設の情報や紹介を伝えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の了承を得ながら食器拭きや掃除などできることをやっていたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当職員から近況報告のお手紙を送っている。必要に応じて電話の取り次ぎの支援をしている。代理受診や必要物品の購入などご家族にお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため外出や面会はできていない		

静岡県(グループホームかまがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりのADLやコミュニケーションの様子を把握し、趣味の合いそうな方たちを地下遺跡にするなどしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの電話相談などをうけアドバイスや支援をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通ができる方からは会話の中から聞き取りを行い、難しい方からは表情や振る舞いなどから汲み取り、職員間で共有している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からこれまでの生活習慣や環境を聞き取り馴染のある家具や衣類を持ち込んでいただいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態など職員間で情報交換を行い変化に応じて生活のリズムやケアの方法などを見直している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に情報交換を行い、変化に即したケアを提供していくと共にケアマネに報告、相談をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートだけでなく口頭での情報の共有をしている		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から新しい要望があればできる範囲で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のためできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や受診ができるように主治医と連携をとっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院から健康管理のため週1回訪問看護師が派遣され個々に様子や体調の管理をしている。必要に応じて各主治医に上申やアドバイスをしてくれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に病院へ様子を見に行き情報交換をしたり、ご家族に経過を聞き主治医に報告している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は関係部署と話し合い、早めにご家族を交えてメンテラを行い、事業所で看取りを希望された場合はできることとできない事を説明し、その中でご家族の意向になるべく沿うようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を活用し、緊急連絡訓練や対応法のプリントを配布し、各自対応できるようにしている		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を行い、水害時においては防災マップ、避難レベル水位の確認ができるように研修をしている。また、法人内でBCPを作成し系列ホームとの協力体制を築いている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をしながら入居者様が希望など言えるような雰囲気を作り意向を聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で何かを行うときに無理に参加を勧めない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ洋服などはご自身に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものや食べたいものを尋ねて提供したり野菜の皮むきや盛り付け、食器拭きなどできることをやっていたいしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量を把握している。昼は肉料理夜は魚料理とバランスの良いメニューになるようにしている		



静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方には声かけを行い歯磨きを促し、できない方は職員が介助にて行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンや排尿量を把握し、こまめな声かけや適切なパットの使用をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し必要に応じて下剤を服用していただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やご本人の意思を尊重し入浴を見送ったり正式に切り替えたりしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠が強い時は無理をせず横になっていただき休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに見れるように内服薬情報をファイルしておいてある。症状の変化などあった際には、職員間で話し合い主治医に報告し変更があった場合は、申し送りノートを活用し把握するようにし細かな様子観察を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	了承を得ながら毎食後の食器拭きや洗濯物たたみなどの家事手伝いをして頂いている。また、季節の掲示物を一緒に作ったりしている		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ化で外出はできていないがホームの畑などで季節の野菜を収穫したり近所に散歩に出かけている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金がある方は支援や管理は施設で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙が届くことがある。返事を書ける方は返事を書いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の立場になって空調の調整をして快適に過ごせるようにしている。また、季節感が出るように壁飾りを変えている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、レクなど状況に合わせて楽しめるように席替えをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や自宅で使い慣れたタンスや寝具を使用し居心地よくしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室の場所には大きな字で張り紙をし分かりやすくしている。また、廊下には車いすや歩行器を使用されている方が通りやすいように物は置いていない		